

meguza

2015.6月号 Vol.85

旬みょうがのお話...



命を救う！
15分と40分
の危機



自動車内に置いていかれた小さな命(子ども、ペット)が熱中症で命を落す悲しい事故が絶えません...
アメリカの獣医師が自ら暑い車中に入り、車内温度を体験するという実験をYouTubeで話題です。

実験はアメリカで気温35日の日。車を停めエアコン停止。窓はペットが飛び出さないことを想定して、4か所の窓を上部3cm程開けておいた。...そして車内には獣医師一人。...外気温35度で、5分後には車内38度、10分後40度、15分後43度!!
わずか15分で43度です。インド2300人が命を落とす熱波の42度よりも高いのです...「ほんの少しなら大丈夫」は大丈夫ではありませんよね...悲しいが滅びます(泣)

6月から夏の間に旬を迎えるみょうが。薬味としても、甘酢漬けの肴休めとしても良いですね。

このみょうがの味覚、実は日本人しか理解できないそう。現在、野菜として栽培されているのは日本のみだそう。...

さて、このみょうが(茗荷)の由来をご存知でしょうか? 私は味覚も好きですが、みょうがにまつわるお話で大好きな説話があります。

「茗荷」と名付けられた由来

昔々、お釈迦様がご存命の頃。インド北部に周利槃特(しりはんてく・チーラパンタカ)という青年がいました。彼は兄と共にお釈迦様に弟子入りをしてお坊さん。ところが兄はとても賢く、教えたことを理解し、経典もスラスラ覚えるのが、周利槃特は、どうしても物覚えが悪く、自分の名前すら忘れてしまう癖がありました。兄は何か弟に物覚え良くさせようと尽しましたが、どれもダメ... 周利槃特は己のあやうさに泣き暮れ、途方に暮れていました。その時、誰からも見離れた彼に手を差し伸べたのは...



お釈迦様でした。お釈迦様は、こう悟りました...「周利槃特は、覚えることが苦しい。名前を書いた札を背負えば良い。そして、自分があやうかであることに気付いている人は、知恵のある人だ。自分のあやうさに気付かぬのが本当の愚か者だ」と...。そして1本の(ほうき)を与えます。「ちりを払おう、あかを除こう」と唱えて、掃除をしてみなさいと...

その日から周利槃特は雨風暑寒問わず、徹底的に休まず掃除を続けました。そして彼をばかにしたり、見離す人は居なくなり、彼自身も「掃除で除いたちりやあかは自分の心の中の汚れなのさ... もっと除いていこう...」と、フルに心の中の汚れを全に除去。阿羅漢と呼ばれる小聖者の位になりました。

お釈迦様は大衆に悟ります...「悟る(成功・達成)とは、沢山のことを覚えたり学ばなくては生かれません。わずかなことでも真実に、素直に真実を求め、徹底して行うことなのだ」と。(この話が大事!!)
↑ meguza編集長も、覚えるのが苦手なmeguzaだからか、覚えていない(泣)です。時間が経ち、周利槃特が亡くなり、彼の墓地に何となく味のある草が生まれました。その草に名れを荷(お)を彼を映し、「茗荷」となったのです。

「おがを食べると物覚えがよくなる」というのはニガハのお話。ニガハは頭、働きよく薬味だからご安心を♡



「梅雨の前に...」 ゴ遠慮なくお電話ください

屋上やバルコニーの、大切な排水口を「ドレン」と呼びます。水が流れるのは当たり前... 普段掃除をする方も少ないと思います。しかし、落ち葉や泥などによって水が溜まるようになると、



プール状態になって漏水の危険性が高まると同時に、防水自体を劣化させる原因にもなります。排水口として適正に働き続けるためには、お手入れも必要ですね。



『屋上の手摺の外にドレンがある』
『梯子で上がらないと点検ができない』というような場合は大変危険ですので無理せずにご連絡くださいませ!

茗荷元 meguza編集長 鹿建設(株)
〒110-0001 東京都港区有明1-10-4
Tel. 03-3350-6689
Fax. 03-3350-8186